

2001年6月26日

防衛庁長官 中谷 元殿

## 航空自衛隊の誤射事件に抗議する

日本高等学校教職員組合  
中央執行委員長 岡田 愛之助

6月25日、北海道の島松射撃場上空で訓練中の航空自衛隊南西航空混成団所属の迎撃戦闘機F4EJ改が20ミリ機関砲を「誤射」し、北広島市の福祉施設や乗用車に被害を与えた事件に強く抗議する。

着弾した北広島リハビリセンターには身体障害者施設と特養部があり、被害時刻には300人を越す入所者と職員がおり、一步間違えば大惨事になっていた事件である。そもそも、民家のすぐ近くでジェット戦闘機が訓練弾とはいえ弾薬を搭載して射撃演習をしているということが大問題である上に、戦闘機のパイロットによれば「機関砲の引き金を引かないのに弾が出」て、1.5キロの範囲に188弾もの機関砲弾が発射されていることはたいへんな事態であり、絶対にあってはならないことである。

今年4月にも自衛隊は、北海道然別演習場での実弾射撃訓練で重機関銃弾が士幌町の農家のハウスに着弾するという事件を起こしている。これらの事件は、国を守るはずの自衛隊の「誤射」などによって住民が犠牲になる危険性を明らかにしており、地域住民は生命と生活に大きな不安と恐怖を覚えている。

さらに島松射撃場と福祉施設との間には、西部小学校と西部中学校があり、「もし、事故発生が数秒ずれていたら・・・」と考えると、戦慄を覚える事件である。そうでなくとも、射撃場周辺の学校が、授業中まで騒音に悩まされ、子どもたちが「誤射」の危険性にさらされながら学校生活を送っているのは、重大な問題である。子どもたちに安心して学べる安全な学校を保障することは、今、何よりも必要な条件として求められている。

私たちは、今回の「誤射」事件に強く抗議するとともに、以下のことを要求する。

### 記

- 1、島松演習場での射撃訓練を、今後一切中止すること。
- 2、第三者機関に調査を委ね、事件の真相を究明し、公開すること。
- 3、すべての演習場について、住民の安全を第一に根本的に見直すこと。